

第3回

台東区震災復興小学校の校舎及び  
用地の有効活用に関する検討委員会

日 時 平成28年10月20日

台東区企画課

- |       |                            |             |
|-------|----------------------------|-------------|
| 1 日 時 | 平成28年10月20日(木) 10:00～11:45 |             |
| 2 会 場 | 区役所4階 庁議室                  |             |
| 3 出席者 | 委員長 越 澤 明                  | 副委員長 吉 川 徹  |
| (4人)  | 委 員 元 倉 眞 琴                | 委 員 野 本 孝 三 |
| 4 欠席者 |                            |             |
| (1人)  | 委 員 山 家 京 子                |             |
| 5 事務局 | 企画財政部長                     | 佐 藤 徳 久     |
|       | 副参事                        | 佐々木 洋 人     |
|       | 企画課長                       | 酒 井 ま り     |

(午前10時00分 開会)

○事務局 皆様おそろいになりましたので開始したいと思います。

それでは、委員長、本日の進行をよろしくお願いいたします。

○委員長 それでは、これより台東区震災復興小学校の校舎及び用地の有効活用に関する検討委員会を開会いたします。まず、配付資料の確認をお願いしたいと思います。

○事務局 それでは、事務局から配付資料の確認をさせていただきます。

(配布資料確認)

○委員長 委員会の傍聴についてお諮りしたいと思いますが、まずは本日の委員会の傍聴について、ご希望はございますか。

○事務局 本日、傍聴希望者は4名となっております。事務局で事前に承認願いを確認したところ、傍聴の要領に合致していましたことをご報告いたします。

○委員長 では、傍聴について、第1回委員会で決定したとおり、原則公開となっておりますので、傍聴を許可したいと思いますのですが、いかがでございでしょうか。

(異議なし)

○委員長 では、ご案内をお願いします。

○事務局 それでは、傍聴の方に入室していただきます。

(傍聴者 入室)

○委員長 次第の2、第2回検討委員会の議事録の掲載について、事務局からご説明をお願いします。

○事務局 第2回検討委員会の議事録の掲載についてご説明いたします。

(資料1説明)

○委員長 よろしければ本議事録を検討委員会終了後にホームページに掲載したいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

○委員長 ありがとうございます。

続きまして次第の3、第2回検討委員会における意見回答について、事務局よりご説明をお願いします。

○事務局 それでは、資料2をご覧ください。前回の検討委員会にいただきましたご意見につきまして、ご説明いたします。

(資料2、別紙1～2、参考1～3説明)

○委員長 ありがとうございます。ただいまご説明いただいた内容について、ご質問等、あるいはさらに、何かご要望等があれば伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

○委員 別紙1の旧坂本小学校再開発検討小委員会ですが、そこでは、入谷地区再開発検討委員会で取りまとめた意見を受けた状態で、議論されているのですか。全くそういうものに拘束されなくて、フリーに旧坂本小学校の3町会が意見をまとめようとしているのでしょうか。

○事務局 特に入谷地区再開発検討委員会の意見に縛られて議論しているという状況ではありません。幅広くいろいろ意見交換をしているという状況でございます。

○委員 入谷地区再開発検討委員会のところで、解体に異議なしの結論と書いてありますが、旧坂本小学校再開発検討小委員会では保存の話も出ているのですか。

○事務局 10月に第4回を開催しましたが、そのときには参加者が他の学校跡地の校舎の活用事例などの説明をして、そういったやり方もあるのではないかなというようにお話は出ているというところです。

○委員 わかりました。ありがとうございます。

○委員長 別紙2の資料ですが、こういう形できちんと区としてまとめたことは初めてですか。

○事務局 このような形で復興小学校全部を網羅した形で公表できるものをつくったのは初めてになると思います。

○委員長 別紙1の資料ですが、提言提出と上に上がっていますが、平成27年3月でまとめたかどうかわかりませんが、入谷地区町会連合会に上がって、この連合会からさらにどうなっているのですか。

○事務局 これは提言提出とありますけれども、今、旧坂本小学校再開発検討小委員会で活用についていろいろご議論いただいているのですが、その活用の考え方、意見について、今後、入谷地区町会連合会に上がっていくというような形になろうかと思っています。

○委員長 上がった後は、さらにどうなるのですか。

○事務局 入谷地区町会連合会から区のほうに提出されることになろうかと思っています。

○委員長 その後、区としての取り扱いはどうになるのですか。

○事務局 地域の方からの要望ということにはなるとはありますが、この入谷地区町会の総体としてのご意見ですので、区としても十分尊重しなければならないご意見だろうなという認識はございます。

○委員長 わかりました。

では、後でまたこれのご意見をどう我々としては見るのかどうかを踏まえて検討しましょう。

というのも、実はどういう立場の人が、どういう前提・知識で物事を議論しているかというのが一番重要で、その地域の方の意見を尊重するか、しないかとか、そういうことに価値判断をつけているわけではなく、我々の立場は専門家として言っている意見なので、地権者でもないですし、事業者でもないで、あくまでも専門家としての意見を言う立場になります。

それから、この委員会はこの地区に関する一番の上位計画をつくるような、政策判断するための提言とは私は思っておりません。

ですから、このような意見が出たということだけで、逆に言うと、どういう立場の人が、どういふことで発言しているのかを知りたいという意味で言っているのです。

○事務局 どういふ方が参加しているかにつきましては、町会が基本的にはベースになります。町会長や町会役員の方々ですので、土地活用などについての専門家ではありませんが、やはり自分の住んでいるところの大きな土地の活用ということになりますので、いろいろ自分としての意見をお持ちの方たちの集まりというようなことになろうかと思います。

○委員長 そういう意見を出されるのは当然だと思います。ですから、立場でそれぞれ意見を言っているので、我々もこういう学識という立場で、何も利害が全くないという立場で意見を言っているということになるので、あとは区の責任としてどう受け取るかということになるかと思います。

それで伺いたいのですが、参考資料１、２、３と改めて整理されてきたので、経緯はわかってきましたが、当然ながら行政としても、平成１４年、平成２３年、２７年と、それぞれ時代の状況と、首長や区議会、区の中での検討を踏まえ、このようないろいろなことをされているとは思いますが、平成２７年の台東区大規模用地の活用に関する提案募集についての前提条件は、主にデベロッパーだと思いますが、当然、事業者が提案すれば、このような提案をするのは当たり前なのです。そもそも民間活力の導入をしたいという政策決定をもうされているのですか。それとも、単に民間事業者の知恵を拝借しただけなのでしょうか。

○事務局 後者のほうに近いものになります。

○委員長 これは民間活力の導入をしたら当然ながら、基本は更地活用をベースで考えるのが当たり前で、世界遺産に初めて都内で指定された国立西洋美術館がある台東区で、公共施設をより大事に活用できないかという視点で、民間事業者に提案募集した場合には、また別の意見が出てくると思います。

ですから、それはそのような考え方の受け取り方でよろしいですね。

○事務局 これはあくまでどのような活用のアイデアがあるか、区として活用の方向性を検討し

ていくための検討素材ということでの位置づけでさせていただいております。

条件は、避難所を確保することを設定し、13の提案が出てきましたが、そのうち、既存の校舎をそのまま活用する提案と、一部利用という提案がそれぞれ一つずつ出ているところでございます。

○委員長 わかりました。

では、また本日の議論の中で、旧坂本小学校についての議論をするときにまたいろいろ意見交換したいと思います。

ほかに特段なければ、本日の本題のほうに入っていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○委員長 では、次第の4、提言構成の(案)と、次第5、3校に関する意見まとめについて、説明をよろしくをお願いします。

○事務局 それでは、資料3と記載のあるものをご覧ください。

(資料3、別紙3～4説明)

○委員長 まず、本日はこの提言構成の大体の章立てについて、意見交換したいと思います。

まず、全体の構成の流れについてご意見を伺いたいのですが、いかがでしょうか。

一応、対象の6校ということについての各論は当然ながら書くことになると思いますが、参考4の関東大震災と復興の時代という冊子は、区としてつくった資料としては、23区を比較して、少なくとも震災復興対象の区としては、結構レベルが高いです。

そこで復興小学校についても簡明に数ページございますが、非常にコンパクトにまとまっています。区の文化財担当だと思いますが、せっかくなので、関係課が協力し、この機会にもう少しまとめてほしいと思いました。全ての学校の写真も全部出してくださいとまでは言いませんが、やはりこういうものを見るだけで、区の行政としても、区民の方の感覚も違って来るかと思います。意外とこのようにわかりやすいものが発行されていないのです。

この冊子には僅か4行で書いてありますけれども、やはり復興小学校そのものの全体と、台東区における復興小学校とは、というような総論的な話が欲しいような気がします。

書きにくければ、我々のほうで汗を流してもいいのではないかなと思うのです。だからこそ専門家と呼ばれていると思いますので。どうでしょうか。

○委員 よろしいのではないのでしょうか。細かいことを一つだけ言うと、旧坂本小学校は改築小学校なので、改築小学校と復興小学校が細かいところではどう違うのかということも含めて、ある程度、そういう背景の文章がないと後ろの意味がわからないのではないのでしょうか。

○委員長 資料4について、事前に事務局から相談があったときに、私は個人名で書いてほしいということで個人の学識の責任において文章を書いていますから、ここは旧柳北小学校から旧坂本小学校まで、委員の皆さん、私よりもさらに詳しく、きちんと書いていただいています。

皆さん大変一生懸命書いていただいたところでもできれば総論に活かしたいところがあると思います。

個々の意見として、最後に出していい部分もありますが、当然、各委員から出された意見の中で、なるほどと、それはそうだなと、それぞれ納得する部分が当然あるわけで、それぞれの得意分野とか知識が、多少それぞれがお互い違うので、少し意見を出して、上手に総論をまとめたほうがいいかなという気もしています。その場合、多少、委員に、汗をかいていただければと思いますが、副委員長よろしいでしょうか。

○委員 委員長のご指示であれば、書かせていただきます。

○委員長 お互いに委員同士のやりとりが必要になってくるので。総論のところは特に、全体の認識なので、そこで復興小学校を褒めたとしても、区行政が大変困るということもないでしょうから、基本的には我々にお任せいただきたいと思います。

復興小学校、それとあわせてセットで小公園があったという意味とか含めて、どの程度のボリュームにするかというのはまた考えたいと思いますが、分厚い本を書くわけではありませんが、これだけメンバーがいれば、きちんとしたものが書けると思いますので、総論的なところを最初に追加し、それで具体の6校について書いていく。そこに我々が集まった意味があると思います。資料3の項番1と2の間に総論的な話をつけたらどうかということで、あとは順番にずれていくという形になると思います。

そういう前提条件で6校についての意見を出していきます。

提言ですから、総論を読んだ上で、6校の提言の中で行政が100%受け取りは無理な部分があって当然いいわけなのです。だから、こういう論理展開の中で討議されたのですねという中で、関係部局で、ぜひ、考えてほしいというものです。

ただ、我々としては、もう実現不可能な提案をする気は全然ありませんので、学会というかNPOから何か提言を出すというわけではなく、あくまで区の依頼のもとに設置していますから、そこら辺はどこかで、きちんと考えたいと思います。

総論の部分は、事務局にお願いしても、無理だと思うので、こちらで原稿を書いていったほうが早いかなと思います。

○事務局 ありがとうございます。より効率的に、こちらのほうでたたき台はつくらせていただ

きまして、副委員長とご相談をさせていただきます。

○委員長 事務局には、実務的に調整をとってほしいです。総論は我々に任せてほしい。

○事務局 わかりました。

いずれにしても、提言の1章と2章の間に総論的な内容を入れさせていただくということで考えていきます。

○委員長 これは、基本的に原稿はこちらでやります。総論の内容に区として困ることは恐らくないと思いますが、さらにご意見を言っていただくのは結構なので、その上で、後で委員会に出して議論しましょう。

ということで、総論を受けた3章の書きぶりや全体はまた後で考えましょう。

○事務局 その3章のところで、いわゆる復興小学校の意味合いというのは、ここに記載することを考えておりまして。

○委員長 これは逆になると思います。総論があって全体があるから、復興小学校全体とか、台東区内の復興小学校全体については、むしろ総論側で書くべき話だと私はと思いますが、いかがでしょうか。

ですから、そこは専門家に頼んだということで、我々が最大のお返しをする部分というところになると思います。

多分、今後も参考4のような冊子を改定したり、充実したり、また転用するときには、当然そういう文言をどんどん活用して、引用して、パネルをつくったりしてもいいのではないかと思います。

それで、せっかく全体像を示した、別紙2のような総括表がでてきたので、戦後に至る学校の取り扱いということで、これはいい資料なので、ぜひ提言に入れたいと思いますが、この解説は我々では書けません。むしろ区として、この二、三十年の動きみたいな、学校がこういう戦後、やはり改修とか急増で施設が増加して、一部は小公園に転用したケースもあるわけですけども、それは人口がだんだん減少する、それから一方で老朽化で改築するというのが出てきた。後でまた学校跡地を有効利用したいということで、いろんな取り組みを既にされてきているわけで、そこもやはり一言書いてほしいです。その上で、現存するのがこの6校という話になる。これは、区でなければ逆に書けない。

○事務局 この資料を文章化したものというイメージでしょうか。

○委員長 その解説が欲しいということです。そのうえで、この6校を考えましょうということであれば、非常にすっきりしてきます。



それは、区としての取組みは淡々と書いていただければいいので。いかがですか。

○事務局 その辺は、事務局で対応させていただきます。

○委員長 それでは、次に、各校個々になると思いますが、今日は、前回、黒門小学校、東浅草小学校、旧小島小学校について程度の考えを検討してまとめましたので、別紙3、別紙4のような形でまとめの仕方はどうかというので提示されていますが、これについていかがでしょうか。

事務局の提案は、ある程度、共通で書く部分と少し個別に切り分けるということをやったかどうかという提案で、これはやはり個別よりはむしろ全体に持っていこうというのが当然、個々にあっていいと思うのですが、基本的なつくり方ということについてはいかがですか。

○委員 特に、進め方に異論ございません。

○委員長 委員、いかがですか。

○委員 最初の3校に関しては、すごくよく書けていると思います。非常に文章もうまいし、大体前回の意見がきちんと反映されている、いい文章だと思いました。

○委員長 副委員長、いかがですか。

○委員 このまとめ方でよろしいと思います。やはり、各学校の要約としては、このぐらいのボリュームがあり、後ろのほうに書かれている各委員からの主な意見というのは、例えば一例を挙げますと、旧小島小学校のエレベーターのつけ方で、やや技術的な細かいところまで話がいつていますけれども、こういう話をやるかやらないかというのは個別の検討ですから、各委員からの主な意見というのは、やや提案的なものも含めて書かれるわけですから、この2段階構成が一番いいと思います。

別紙3はなかなか読ませる文章で、なるほどと感じたので、こういうイメージでまとめていくのが適切かと思います。

○委員長 では、基本的にまとめの仕方はこのようにしていきたいと思います。

それで、別紙3については、これで原案が出ていますので、これをもとに次回までに我々のほうでまた、少しく書き込んではどうかなど検討し、その中で、提言本文に取り込む部分と各委員の意見の部分とを上手に切り分けていきたいと思います。そのような形でよろしいですか。

○事務局 わかりました。

○委員長 では、基本的には、保全の方向になっている3校については、今の区の姿勢について、基本的に委員会としてもいいのではないかという前提で進めたいと思います。

ただし、私も委員の個人の立場では、旧小島小学校はもう少し頑張ってもらいたいと、現状で満足されないようにというのは、総論に本当は入れてほしい気もしますが、それは今後調整するこ

とでよろしいですか。

(異議なし)

○委員長 ありがとうございます。

では、旧柳北小学校、旧下谷小学校、旧坂本小学校の3校について、各論の部分が問題になってくると思いますので、そこで資料4について せっかくなので、お互いに見ているという前提の中で。各委員からポイントなり、補足などを発言いただくのが一番いいのではないかと思います。

○委員 私だけ長々と総論を書かせてもらいました。というのは、この学校は残して、この学校は残さないというその基準というのは何なのだろうかと考え、改めていろいろな資料も調べてみました。例えば我々は同潤会アパートという近代の都市の歴史の中の重要な都市型住宅をもっていたわけですが、結局ほとんど残すことができませんでした。それは、東京という都市を考えたときに、やはり歴史の奥行を失ったのではないかなと思います。それと同じようにこの復興小学校というのを意味づけられるのではないかなと思います。

つまり、関東大震災の後に、これからの東京の都市はどうあったらいいかということを考え、実行されていくわけですが、その中の大きな一つの要素、一つの戦略として、小学校とそれに隣接した公園を核にした都市づくりというものがあったのだと思います。そしてそれぞれの地区の中で重要な役割を果たしてきました。

今、現存している復興小学校は台東区だけではなく、他の区の復興小学校もかなり少なくなっています。台東区は幸い6校残っています。それらは貴重な都市計画的な遺産としてやっぱり残すべきだろうと考えました。

残すとき、形は必ずしも小学校として現役で残すことにこだわらないで、保存するということだけを目的にするのではなく、次の時代に向けて30年とか50年という時間を考えて、もっと積極的に新たなその場所の都市の施設として、活用していくようなことを考えていけば、新たな展開ができるのではないかなと考えます。

例えば、校庭というのは都市に埋め込まれた「開かれた広場である」と捉えなおしてみる、一番下のほうに書いてありますけれども、それは、例えばそういうような考え方があるのではないだろうかということなどを記しておきました。

それぞれの小学校に関しては、書かれたとおりです。旧柳北小学校については、地域の中でスポーツ施設その他として活用されているので、今述べたように、もっと長期の将来を見越した整備をして活用していくのがいいだろうと思います。

旧下谷小学校に関しては、この地区は、将来再開発される可能性が非常に高い場所です。だから旧下谷小学校を再開発の建設地として使いたいということは理解します。しかし先ほど述べたように、積極的に空間を利用して地区の再開発の重要な施設として新たな機能を与えて時間と空間を継承するということがあるのではないかと考えています。

それから、旧坂本小学校に関しては、基本的には上野公園に非常に近いということも含めて、旧小島小学校のデザイナーズビレッジの第二弾のような形で、文化・芸術に使われるような施設になったらいいかなと思います。

○委員長 ありがとうございます。それでは委員、よろしくお願いいたします。

○委員 まず、全体的な意見を書くときの考え方を述べさせていただきたいのですが、各学校について、現地を見学し、歴史的価値が非常にあるものが多いなということはよく感じております。そうしたことから、歴史的価値に配慮しつつ、残せるものはできるだけ残すという、そういう方向だろうとは思っています。その一方で、行政ニーズや地域のニーズもある中で、歴史的価値を尊重しつつ、どのように活用していくかという、そんな立場で書いてみたつもりです。

主には資料4に記載のとおりですが、まず、旧柳北小学校は、皆様もご存じのように、秋葉原と浅草橋に囲まれた商業の集積地にありますので、歴史的価値にも配慮しつつ、一方では高度利用をしていきたいと考えています。

次に旧下谷小学校は、区役所に隣接しており、交通機能的にも駅に近いということで、一般的にも効率的に使いたい場所でもあると考えています。

そうしたことから、やはり歴史的価値への配慮を図りつつも、区役所と一体的な利用、整備をしてはどうかと考えています。例えば、地震などが起きたときには、やはり区が中心になって、そういった救援などを行わなければいけないことから、そういった防災機能や病院など、そのような機能、あるいは小さなホール的なコンベンションも考えられると思います。

それから、旧坂本小学校は、上野公園の美術館、博物館、あるいは東京藝術大学とも近い場所にもありますので、一部意匠を残しながら整備すべきではと考えております。

○委員長 ありがとうございます。それでは、委員、よろしくお願いします。

○委員 書いた基本的な考え方は、先ほど述べた委員とあまり意見は変わらないという感じです。

個別については、ほかの委員の方がおっしゃらなかったことを中心に補足しますと、まず、旧柳北小学校については、柳北公園がこの旧柳北小学校の北側にあります。そういうこともあり、ややこの場所の高度利用に私は悲観的です。また駅から距離が少し遠いので、どうしても旧坂本小学校の立地に比べるとこの場所のほうが少し高度利用はしにくいかなと思います。

さらに、柳北小と柳北公園の関係が非常によく、柳北公園がすばらしい公園なので、下手に高度利用すると柳北公園を巻き込むことにもなりかねないので、それらを考えると、この敷地の高度利用がしにくいと思われます。

また、ブロック全部を学校と公園が占拠している東浅草小学校とは違い、旧柳北小学校の隣に民地があり、民地と同じブロックを共有しています。東浅草小学校のような敷地はいろいろな意味で使いやすいが、民地がブロックに入っていて、北側に復興公園があるという敷地というのは、都市計画として、この敷地だけで物が考えられないと思います。ここにボリュームの大きいものを建てると、区全体としての公共性や、周りの民地との調整、様々なことを考えると、それがよいのかという問題もあります。道路に関しても、正面の道路はよいが、それ以外の道路はそれほど広くないので、実際の活用案を考えだすのは難しいと思います。

一方で、建物自体は耐震性ありと判断されているわけですし、フランスの学校に貸すなど、この学校自体が今まで歩んできた歴史が多層化している。現在も仮校舎として使っているということであれば、今後もそのような観点からの既存校舎の活用という選択肢もあるだろうということで、旧柳北小学校については、そのまま使ったほうが区にとっては使いいいかもしれないという方向で書いてあります。

旧下谷小学校については、場所がいいので、やはり区全体のシビックセンターの整備方針というものが大きく影響してくると思います。

資料4で他の委員がお書きになった意見にあるような、既存校舎も巻き込んでシビックセンターをつくるという、建築的な提案もあり得るだろうとは思っています。

最後に旧坂本小学校については、駅からの位置が近いという立地や、区画整理区域外という改築小学校であり、やや周りの都市基盤がやはり弱いというのは特徴であること、また小公園がないということが特徴であると思います。

一方で、これも委員長がおっしゃるように、それだけで校舎が活用できないと言われると、いろいろな考え方があると思うので、ここについては保存することが不可能とは私も思わないですし、そういう可能性も探求できれば、それも一案として非常にいいと思います。

一方でここを高度利用したいというような意見があることもよくわかる場所なので、その場合には、高度利用するというのであれば、やはり今あるものをどのように継承できるのかといった視点が大事になります。

それは、最近の建築物は非常に高度にこういうことができるようになっているので、そのような事例も参照しながら、その方向性も考え得るだろうというところで、意見を書いています。

○委員長　ありがとうございました。

では、続きまして、私の委員としての立場として、少しお話ししたいと思います。

資料に書いてあるとおりでございますけれども、旧柳北小学校の場合は、この過去の資料の中に沿革で、どれも明治から始まりますが、ここは大名屋敷の跡地でありまして、大名屋敷を活用してこういう公共施設化したところなんです。その認識をぜひ区としては持ってほしい。

大名屋敷もさまざまで、中央の霞が関とか丸の内になっている場所もあれば、台東区内の大名屋敷跡地のほとんどは細分化していったと思います。

ですから、基本的には公共施設として確保されている、数少ない箇所の一つです。それは、その土地の価値といいますか、土地柄で、それは恐らく今まで台東区の行政はあまりそのような観点は、なかったと思います。

台東区には上野公園があり、東京の中でも有数の大きな資産があるので、一種の中小大名屋敷のところまでは意識がなかったと思いますが、当時そのような場所で、公共施設化していったという経緯がありますので、そのような土地の記憶という点で認識してほしい。

また、ここは今までの区の対応と姿勢からいっても、公共施設で、今の状況で保持したいという感じも受け取れますので、小公園と復興小学校はセットで、ある意味では本来の形で残る非常に珍しい箇所なので、その価値を活かしていったほうがいいのではないかなと思います。

その中に、かつての大名屋敷のあったこの地域とか、あるいはこのフランス人の学校にも使ったとか、それも、また新たな非常にいい歴史ですので、地域の展示も少ししながら大いに活用していくということが一番いいと思っています。

旧下谷小学校については、私としては、やはりこれは区としてのシビックセンターとしてのこの地域をどうするかという明確な方針があるのであれば出していただいて、その上で逆に、でないと議論にならないと私は思います。

それはもし区としての方針がないのであれば、なるべくなら現状で、できる限り壊れない程度に維持して、その時点で一番いい知恵として使うところがいいと思います。

なぜなら、台東区が一番中心部の公共施設群の地域ですから、その土地利用とか、転換というのは、もう慎重の上に慎重に、区として熟慮を重ね、きちんと議論しなければならない場所のため、単純に土地活用をしてはいけない場所だと思います。

ですから、現状のこの区役所にしても、50年後これをそのまま使うということはまず想定できない。数十年後に建て替えが来るとわかるわけですから、この地域をどうするか、責任を持って区として考えることが重要だと思います。

その際に、我々としては、例えば活用をしながら校庭部分に高層棟をつくるなど、これは今でも中央郵便局もそうですし、いろんなケースは東京を含めて、また世界中あるわけですから、やっぱりいろいろなパターンを考え、政策判断をしていくということが大事なのではないかと思います。

私はむしろ区が主導して、いろんなパターンの検討をして、それに応じやはり意見を専門家に求めたり、地域に求めたりということを、また議会に対して説明するという事ではないかと思っています。

つまり性急に壊す必要は全然ないと思います。一般論で言えば、全体について、行政需要に伴う新規の公共施設をつくるというのは日本全体で抑制基調にあり、むしろ既存のものをどうするかということになっています。

それから、東京の場合は、まだ人口とか行政需要がありますので維持していけますが、地方都市の場合、ほとんど縮退、むしろどう撤退するかということを一生懸命議論している中で、高度成長期ではないという前提で、成熟社会の中でどう考えるかというのがやはり基本の区の行政の大前提だと思います。そこで言うと、性急にどうこうするということではなく、区として、一番中心の行政の中核地域をどう考えるかということをじっくり提起していただくということではないかなと思います。

ただ、ある程度の素案があるのでしたら出していただいて、それに基づいて例、例えばこういう点、留意点など、言えると思うのです。

また一般論として、こういう建物も残し、使いながらやるような建て替え事例とか活用事例はいくらでもあるので、卑近な例ではK I T T Eなんかはまさにそうですけれども、そういうことも含めていろんな検討をされたらどうかと思います。多分、委員会としてもそのようになってくるのではないかなと想像します。

それから、旧坂本小学校については、確かに典型的に52カ所の復興小学校、復興小公園というセットではありませんが、震災に耐え抜いたという歴史があり、大変重要で、先人たちがここをなんとか維持してきたということに対して、私は今の町会の意見はそれに対する認識があまりないといえますか、それはただ、地域の方がそう考えるのであればそれは自由ですが、客観的に外から見ると、先人の、自分たちのおじいさんなり、おばあさんの世代がやってきたということに対して、どうなのかなという気が率直にはいたします。

それからもう一つは、民間が純粋に自力でできることを役所が率先してやる必要は全くないと思います。ともかく都心部に人口を定住化したいというふうにならなくて、公有地を活用する

ような地方都市は確かに随分あります。しかし一般論で言えば、東京は、東京のしかも台東区は、民間事業者が自力で住宅をつくれないうことは全くない。

ですから、一部保存なり、全面解体なり、また全面保存なり、いろんなやり方があると思いますが、民間活用についてはよく、本当に何が必要なのか区は考えてほしい。

きちんと時代の流れと、東京の特に都心区は民間が自ら投資できているところですので、その点は忘れないで利活用を考えてほしいと、切にお願いしたいと思います。

当然、地元でいろんな意見が出るのは、意見を出す自由がありますからいいと思うのですが、区として、区の用地ですから、公共地をどう使うかということは、やはりきちんと考えてほしいと思います。

もし民間の土地が、ここをぜひ、この土地と若干公有地を交換してほしいとか、自分たちの開発計画に対してここを一部活用するともっとよくなるという場合には、民間の活動を支援するというので行政は大いにやっていいと思いますが、ストレートに公共地だけということの利活用を、ただ転用はできませんかという前提で議論するというのは、都市政策としてはあまり賢いやり方とは決して思いません。つまり、東京都の都心の区ですから。要はそこら辺をぜひ考えてほしいなと思います。

台東区という歴史のある、江戸時代から続いている区ですから、小学校というのは地域の中心で非常に思い入れがある場所ですので、小学校全体のいろいろな歴史や遺産、遺物などを含めて、それからこういう卒業生がいますとか、やはりそれは教育委員会側で考えることだと思いますが、一種の台東区の小学校を中心とした地域史みたいなものをまとめることで、卒業者の方から写真など、いろいろ出てくると思います。

実はそういうことを中心にした博物館とかはないのです。日本中どこにも見たことがありません。これだけ小学校が廃校になっていますが、教育史の博物館というのはどこにもありません。

教育委員会が自らそういうことを考えないということ是不思議でしょうがないのですが、台東区でそれを、そこまでやってくださいとは言いませんし、旧坂本小学校をそれに使ってくださいという意味で言っているわけではありません。一般論として、もう少し小学校とともに歩んだ地域の歴史などを考えてほしいと思いました。

また、参考3のような大規模用地の活用に対する提案募集をやったこと自体をけしからんなどと言うつもりは全くありませんが、その前提条件で提案があるので、例えば、私は採算性を度外視して、案としてどういうことがあり得るかという、例えば小学校をある程度使いながら再整備するとか、活用するというのはどんなアイデアがあるかを1回募集してみて、それを並べて

みて、もう一回地域で考えるとか、そのぐらいやってもいいのではないかと思います。

つまり、一刻も早く、半年後までに何が何でもこれを決めなければならないということは伺っていないし、そういう一種の政策的な何か、切迫感があるというのは一度も説明を聞いていないので、そういうことまで議論した上で、最終的にこうしたということをぜひしてほしいと思います。

最終的にどういう結論をとられるとしても、経緯と検討過程が一番大事だと思うので、だからこそ、こういう委員会をつくられたと思いますので、ぜひやってほしいと思います。

ですから、次回、特に必ずしも保存の形ではないのではないかという区のお考えもあるように見える、3校について、どういう形で提言として取りまとめるかというところについては、いろいろ今日これから議論したいと思いますが、あくまでスタンスとしてはそういうことで考えています。

提言を必ず実現しなければならないという前提で皆さんも考えずに、我々としては、検討しているのは、ある一定の価値観で一定のことしか検討していないということで、控え目に思っています。逆に言うと、理由があって提言と違うことを区が実施されても全然構わないのです。ですから、お互い明確にしておきましょう。

つまり、旧柳北小学校は、少なくとも保存しながら、区の公共施設に、いろんな活用としてやっていこうという考えには見えますけれども、それもそういうことであれば、大体の活用の仕方というのはある程度、細部のディテールの提案になると思います。

それから、旧下谷小学校と旧坂本小学校については、今後いろいろな活用に使いたいという意思がある場合、その具体の案に対しては、それは我々が熟度に応じてまた答えるということになるので、どこまでお互いに抽象論でやっているか、それが一番今後のポイントかと思います。

それは、今、委員長としての立場で言ったところです。

ということで、旧柳北小学校、旧下谷小学校、旧坂本小学校の3校について、今日、それから次回、どんなふうに議論を展開されますか。

○事務局 事務局からのご提案でございますが、時間の関係上、旧柳北小学校、旧下谷小学校、旧坂本小学校の3校それぞれの意見をまとめるというのは難しいと思いますので、もともとスケジュールをお示ししましたが、もう2回予定させていただきたいと思っております、本日少なくとも旧柳北小学校まではご議論いただき、ある程度方向までまとめていただき、残る2校につきましては、次回に持ち越し、またご議論いただくという形はいかがでしょうか。

○委員長 わかりました。では、旧柳北小学校は本日ある程度議論して、また次のときにもう一



回議論しましょう。欠席の委員がおりますが、意見は事前にいただいているので、ある程度、方向を出してしまいましょう。

○事務局 また、本日の旧柳北小学校、旧下谷小学校、旧坂本小学校の3校につきましては、また本日お示ししたような形で、ご意見をいただいた上で、事務局としてまたまとめの文案を、次回ご提示させていただきたいと思っています。

○委員長 事務局からご提案がありました、いかがですか。

(な し)

○委員長 では、旧柳北小学校について、既にご意見を伺っていますが、区として現時点ではどういう判断をされているわけですか。もう一度改めてご説明をお願いします。

○事務局 区としては、現在のところ暫定活用ということで、本格活用をどうするかという考えはまだまとまっていないところです。

現在は、蔵前小学校が仮移転で使うとしておりますが、その後どうするかという方向性を出していないという状況です。

○委員長 今のところ伺いたいのは、区の考え方として、何が何でも旧柳北小学校は建て替えたいと思っているのですか。既にある程度、耐震改修的なことも終わっていますので、現状で使えるわけですね。

○事務局 そうです。

○委員長 ですから、基本的には使っておこうかということなのか、そこら辺を逆に意見を欲しいということなのか。そこら辺はいかがですか。

○事務局 現時点では、確かに今、建物が耐震補強されていて、今後も区有施設の大規模改修が見込まれるところもございますので、例えば参考2の大規模用地の活用構想の3ページのところに活用の考え方というのがございまして、現時点では、活用の考え方の②番「区有施設の仮施設としての活用」としての使い方をしているわけですが、今後も区有施設の改修がございまして、今のところはこのような形で使っていくのかなというところではございます。

大規模用地も、それほど数が潤沢にあるわけでもないので、こういったある程度まとまった用地というのはかなり貴重であるという状況です。

○委員長 大規模用地の活用構想には、一般論ですが、当然、売却による視野ということも書いてありますが、それは旧柳北小学校にも該当するのですか。

○事務局 今そういったことの検討は、全く行ってはいません。

○委員長 この辺は、我々としては、現状の校舎を活用しながら、区としてのその時期における

よりよい使い方をしていくということを今後続けてほしいということに、誰も異論はないと思います。

売却については明確にすべきでないと、提言に書いては困りますか。

○事務局 基本的には、この学校跡地から流れる大規模用地について、売却という考え方は今のところありません。

この提言の中でそういった意見を入れることについて、それは差し支えないと思います。ただ、事務局としては、それを書いてくださいということの要請はいたしません。

○委員長 やはり少し強く、我々の方で書きましょうか。

○事務局 どういった観点から、例えば売却をすべきでないとなるのでしょうか。

○委員長 つまり、売却は、区の全体の財政運営と、それから新たな行政需要の用地の二つのバランスだと思うのです。その二つについて、どうしても旧柳北小学校を使わないと区として困る事態にあるとの説明は伺っていない。また、台東区が深刻な財政に陥ったときに公共施設全体の中でどこかを、どうしても売却しなければならないようなケースの場合でのプライオリティの問題です。

あまり復興小学校や小公園があるというところの価値づけを見出さないという結論になれば、当然ながらいろんな活用をしましょうということがあってもいいわけです。

しかし、我々としては、それは価値があるのではないかという価値観に立つと、極力そういうことはやめてくださいという結論に自然になってくる。単なる論理展開だけです。

我々の場合は、今のメンバーの共通見解は、やはり震災復興の中でこういうものをつくって、台東区民としてそこで多くの方々が卒業されてきたという歴史は大変重要で、建物自体もやはり、公共施設としての建築的価値は大変あるというところでは共通見解だと思っています。

したがって、それを論理的に展開すると、これは少なくとも処分対象ということの優先度でいうと、上がってくるということはまずあり得ないという話です。

○事務局 今、旧柳北小学校の議論からそのご意見が出ましたけれども、それは全体に関わることということでしょうか。

○委員長 全体もあります。そこで言っているのは、少なくともこの一帯というのは台東区にとって特別な場所です。何が何でも現状の校舎を完全保存しなければ絶対使ってはいけないとは、書かないと思います。

だけれども、いろいろな方策も含めて比較したらどうですかということは、多分そのあたりが落ちつきどころで、最終的に、その選択肢の中に、どうしてもやはり一部壊してこういう土地を

使いたいとか、そういうところまでは、多分、我々は否定しないと思います。ただし、できる限り、そういうものの価値を継承する努力はしてほしいと。それがどういう具体になるかというのは、また、いろんなパターンがあるということです。

○事務局 それは、区に投げかけているということですか。

○委員長 そうです。

○事務局 それはかまいませんが、ただ、旧柳北小学校にだけ記載するというのは、受け取り方としてどうかと思うので、全体としてそういう考え方があるということは書いていただいても構わないと思います。

特に6校ということで、今わざわざこの検討委員会を設置して、各専門分野からご意見をいただきながら進めたいということですので、全体に関わる部分について書いていただくというのは、それは構いません。

○事務局 そうすると、例えば資料3提言の構成の6番目の章がその6校全体の部分になると思いますが、ここにそのような内容を。

○委員長 全体のポリシーを書いた中で、具現化すると旧柳北小学校ではこういうふうに具現化してくださいとなってくると思います。だから、そこら辺は少し、また、事務局で揉んでいただくということでどうでしょうか。

具体的に文章化した上で、区の中でも揉んでいただいて、我々のほうに見せていただいて、我々もまた意見を出すということではいかがでしょうか。

○事務局 はい。

○委員 なるべくこの委員会の中で、将来を含めて、つまり、今どうするかではなく、この先、何十年か先どうするかということを提言したいと思います。

○委員長 ですから、2、30年ぐらいのスパンを見据えて考えていきましょう。

というのも、前提条件は、2、30年後に東京の都心部の人口が急増するということは、まずあり得ないですね。急減するといっても日本全体では、多分、遞減率はそれほど少ないと思います。

台東区は、大都市に位置している地域で、しかも観光的には浅草という、東京で有数のものを持っている。一方で、もとは寛永寺であり、江戸の中でも大変重要な場所であった上野公園がある。また、上野公園は、明治以降に博物館地域になってきて、東京藝術大学もあり、そういう東京の中の文化の拠点の重要な箇所の一つを抱えているという特色を見ないといけない。

さて、旧坂本小学校と旧下谷小学校については、現時点で事務局から何かお話しできることは

ありますか。

○事務局 現時点では、今までの検討会で状況ご説明させていただいておりますが、ただいま委員長からも、本日どこまで熟度のあるものがあるのかというお話もありましたので、こちらは次回の課題とさせていただきたいと思います。

○委員長 ですから、区としてのお考え、ある程度こうしたいという方向性があるのであれば、その中で我々として意見を言っていくという形でいいですか。

○事務局 こちらからご提示させていただいたものをもとにご意見をいただければというふうには思っております。

○委員長 では、次回は今までの、旧柳北小学校を含め4校についてはほぼ案が出ていて、旧下谷小学校、旧坂本小学校は次回のときに具体の議論をする。

それから、総論の大体原稿もある程度こちらで書いておくということで進めたいと思います。

○事務局 事務局としまして、本日、資料3で提言の構成、章立てをお示ししておりますが、次回のときには、総論で書いていただくところも含めて、落とし込めるところはここに落とし込み、ご議論いただく必要があるところは空白にさせていただくような形で次回に提言の体裁で提示させていただきます。恐れ入りますが、総論の部分をそこに間に合うような形で調整させていただければと思います。

○委員長 よろしくをお願いします。

○事務局 資料4につきましては、現在の資料は、各委員のお名前を入れさせていただいておりますが、この委員会終了後、ホームページに資料を掲載する予定でございます。議事録は各委員のお名前を載せていないような形にさせていただいておりますが、ホームページ掲載の際にこの委員名はいかがいたしましょうか。

○委員長 これは委員の皆さんにお諮りしたと思いますが、いかがでしょうか。

それぞれ個人の見識に基づいて、そのストーリーで書かれているので、私はそれぞれ、名前を出していいと思いますが、どうでしょうか。

○委員 私はいいと思います。

○委員 そもそも公開の委員会ですからね。よろしいのではないのでしょうか。

そもそも議事録の場合には、その場の発言がいろいろ議論で変わっていくわけで、その中で意見がまとまっていくので、その途中の一言一言が問題というのは、個別の誰が発言したというのを問題にするのはどうかということもあります。この資料自体はそのためのたたき台として出された、委員会が始まる前までの一旦の整理ですから、そういう点では、扱いとしては、これ自体

がもう、たたき台のたたき台なわけですから、名前が出て、何かそれが結論まで引っ張られてという話ではないので、大丈夫ではないでしょうか。

特に慎重を期するような審査についてのことでと、それは最初から全てを秘匿すべきですけども、この場合はそこまでは当たらないのではないですか。

○委員長 これは個人の見識に関する意見なので、逆にそれについて、区は、例えば一般の区民の方から問い合わせがあっても、何も答える必要はないのです。これはこの委員が責任において発言している部分で、区としてどう決めたかは、それはまた別ですということです。

○委員 しかも委員会の前での、議論する前の最初の意見ですから、その後、変わっているかもしれません。現時点のものではない。

○委員長 では資料4では記名で公表ということによろしいですね。

(異議なし)

○事務局 では、このままの形でホームページに、会議終了後、掲載をさせていただきます。

○委員長 次回の日程と、今後のスケジュールについて。事務局よりご説明をお願いします。

○事務局 本日、各委員の皆様から貴重なご意見をありがとうございました。

(次回の日程報告)

○委員長 それでは、これを持ちまして、第3回台東区震災復興小学校の校舎及び用地の有効活用に関する検討委員会を閉会いたします。また次回、よろしくお願いします。

(午前11時45分 閉会)